令和８年１１月号

川越セントノア病院　〒350-1155 埼玉県川越市下赤坂２９０－２
TEL049-238-1160　FAX049-238-1162　https://www.saintnoah-kawagoe.jp

ノアの爽風（かぜ）



～目次～

- 病院短信『医療 DX とは』
- 看護日誌
- 介護だより
- 日常の一コマ

１１月の予定

◇誕生日会

１病棟：　１３日（金）１４：００～
２病棟：　１２日（木）１４：００～
３病棟：　１１日（水）１４：００～
各病棟にて

誕生日会

１０月の誕生日会は運動会バトンリレーやハロウィンにちなんだゲームが行われました(*’▽’)



紅白対抗!!バトンリレー(｀ー´)ノ





オレンジの紙吹雪を投げてお化けカボチャを完成させよう(*’▽’)









秋まつり





今年も秋まつりが開催されました❣
あいにくの雨でしたが、雨を吹き飛ばすほどの盛りあがりでした~(*’ω’*)





恒例のマツケン登場❣
患者さんも一緒にマツケンサンバオーレイ(‘ω’)ノ



ディズニーキャラクター勢ぞろい❣
ジャンボリーミッキー!(^^)!❣



365 歩のマーチ!!をみんなで踊りました(*^。^*)

一家だんらんの風景(#^.^#)



病院短信

医事課

『医療ＤＸとは』

近年、少子高齢化の進行や医療従事者の不足、医療費の増加などが課題となっており、これらの問題を解決するため、厚労省は医療ＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）を推進しています。医療ＤＸとは、デジタル技術を活用して医療現場の業務やサービスを改善し、医療の質や効率を向上させる取り組みです。

医療ＤＸの具体例として、マイナ保険証・電子カルテの普及・オンライン診療・電子処方箋の導入・医療情報の共有などが挙げられます。例えば、医療機関同士で患者の診療情報や検査結果、処方歴などを共有できれば重複した検査や投薬を防ぎ、より適切な医療を提供することにつながります。災害時や旅行先での急病等で、かかりつけ以外の医療機関に受診した場合でも治療の継続が容易になります。また、オンライン診療を活用することで、通院が困難な高齢者や遠隔地に住む人も医療を受けやすくなります。

さらに、ＡＩを用いた画像診断支援や事務作業の自動化により、医療従事者の負担軽減や業務の効率化も期待されています。

他にも、健康診断の結果を共有して、病気の予防や早期発見・早期治療につなげるといったことも期待されています。

一方で医療ＤＸには課題もあります。患者さんやご家族の個人情報や診療情報を扱うため、情報漏えいやサイバー攻撃を防ぐための厳重なセキュリティ対策が重要になってきます。また、システムの導入や維持には費用がかかり、医療機関によってデジタル化の進み具合に差があることも問題となっています。デジタル機器の操作に不慣れな患者さんなどへの配慮も必要です。このため、医療界全体で安全な情報管理体制を整備し、誰もが安心して利用できる環境を整えることが重要です。医療ＤＸは単に業務をデジタル化するだけでなく、健康の維持や患者中心の医療を実現し、持続可能な医療体制を構築するための重要な取り組みとなっています



日常の一コマ



今月は３病棟の柳子さん（８２歳）です。柳子さんは台北市出身で、４人兄弟の４番目として生まれました。高校卒業後、労金で事務の仕事をしていました。２４歳の時にお見合い結婚され、２人のお子さんに恵まれました。ご長男さんのお話によると、「子供のためにいくつも仕事を掛け持ちして、１日中働いていて、自分の時間も無かったと思います。とにかく僕たちのために全エネルギーを使ってくれて、とても感謝しています。そんな忙しい中でもＮＨＫの朝ドラを時々みてはもらい泣きをしていたのが印象に残っています。」とお話してくれました。５１歳の時にご主人が入院されると、お見舞いや介護を懸命になさっていました。６６歳の時にご主人が亡くなり独居となり、７１歳の時に同じものを何度も買う・イベントの日にちを間違えるといった症状が出始め、７２歳の時にアルツハイマー型認知症と診断されました。その後も独居を続けていましたが、７５歳の時に右大腿骨の骨折で入院された際、急激に認知症が進行してしまい、自宅に戻るのは困難となり、グループホームに入所されました。７９歳の時には夜間不眠・帰宅願望等認知症がさらに進行し、施設対応も困難となり令和５年１０月に当院に入院されました。入院当初は自立歩行していましたが、入院から３年経過し最近は膝の痛みの悪化と身体機能の低下に伴い自力歩行が困難となり、トイレ以外は車椅子に乗車し過ごすようになりました。また、食事の認知も乏しくなり声掛けをしないと食べるのをやめてしまい、「食事きていますよ、どうぞ」と声をかけると「わたしの（御飯）なの？嬉しい、うふふ、」と穏やかに返答してくれますが食事の手は動かないことがあり、介助することもあります。



また、周囲の患者さんに対して「あんた何よ」と怒ってしまったりする時は、こちらから「元気ですか？」と声掛けに「元気！元気！」と喜び、「声かけてくれて嬉しい！」とポジティブに返答してくれて笑顔を見せてくれることも多いです。レク活動は変わらず積極的に参加され柳子さんの素敵な笑顔がたくさんみられてスタッフとして嬉しいです。これからも柳子さんらしく過ごせるよう支援していければと思います。

介護だより

１１月に入り朝晩の冷え込みが少しずつ強くなってきました。これから冬に向けて気温が下がるにつれ、体調を崩しやすくなる季節です。寒い時期は室内外の温度差による身体への負担が大きくなります。特に高齢の方は寒さを感じにくかったり、体温調節が難しくなったりすることもあるため、室温や衣類などを調節し、無理なく過ごせる環境を整えることが大切です。また、冬は夏ほどノドの渇きを感じないため水分を摂る量が少なくなりがちです。こまめな水分補給を心がけ、食事や睡眠もしっかり取ることで体調管理につなげていきましょう。そして、これからの季節はインフルエンザや感染性胃腸炎などの感染症にも注意が必要です。手洗いや手指消毒、換気など日頃から出来る予防を大切にしたいですね。私達介護職員も日々の関わりの中で「いつもと少し違う」という小さな変化を見逃さないよう一人一人の体調に気を配りながら支援していきます。寒い季節を元気に乗り越えられるよう、皆さんも無理せず身体をいたわりながらお過ごしください。

看護日誌

１１月は寒暖差・日照時間の減少などにより自律神経が乱れやすくなります。自律神経が乱れると、だるさが抜けない、肩こり・頭痛・腰痛の悪化、胃腸の不調などといった症状が出やすくなります。そんな１１月は本格的な冬に向けた「予防の月」とされ、早めの対策が大切となります。天気の良い日にしっかりと日光浴をしたり、ココアや紅茶、生姜湯などで体内から身体を温める。また、軽いストレッチなどを行い、血行を促すことで予防ができるとされているので、ぜひやってみてください。